

そんなこんなで、気づけば塾にも行かず、家庭教師も知らず、3月のラジオを聴くだけの英語の勉強は、本当に安上がりで、効果的でした。▼あ、それとも一つラッキーだったのは、私は淡路島出身で、高校が明石の学校。毎日船で通っていたのです。トロトロ30分かけて、明石海峡を渡るオンボロ船の中で、何もやることもなく(スマホがあるわけでもなく、ゲームがあるわけでもなく、マンガですらなかなかお小遣いでは買えず)、しょうがなしに英語の本をパラパラめくっていたわけでは、本にしようがなしに。それでも毎日行きに30分、帰りに30分、英語を眺めた効果は抜群でした。今から思えば、貧しい時代、誘惑される物が何もなくあったというのがラッキーでした。そう、私が英語の先生なんかをやっていたら、あの頃「そー！」と思っただけで、毎日船で通ったことが大きな理由なのではないか。

くれた。修学旅行先の温泉で長湯した先生が集合時間に遅れ、若い学年主任から叱られていたのがおかしかった。最初の原書はサリンジャーの『Catcher in the Rye (ライ麦畑でつかまえて)』で、インターナショナル・スクールに通う女の子が貸してくれたが、スラングだらけで理解できなかつた。大学一年の時、基礎演習が2講座あって、ギターが上手なイケメン、カリリー先生に習ったのが『Jonathan Livingston Seagull (かもめのジョナサン)』で、これは私にもわかつた。もう一つはハックスリーの『Brave New World (すばらしい新世界)』で、ヨゼフ・ロゲンドルフという偉い先生の講義は重厚だった。英語力と知識があれば、学問の深みにもっと触れることができたろう。

▼中学で出会い、九十を過ぎて亡くなるまで親交のあったフランシス・マシー先生から大学入学のとき、夏目漱石の『Moon』をもらった。日本文学の研究者で翻訳家だった先生は遠藤周作の小説も訳していて、タイトルは『Wonderful Fool』だった。『Moon』は『Moon』でなければならず、『おバカさん』が『Wonderful Fool』というのが実によい。去年、結婚を機に退職された神保先生が高校生の時、授業で『ミンクウエイ』の『The Old Man and the Sea』を教科書に使い、一年かけて読み切った。途中は長く退屈なのだが、最後の場面にたどり着いた時の教室にあふれた達成感忘れられない。

「Honesty」 Billy Joel 僕が中学1年生だった時に、英語の担当かつ担任だった先生が授業中に流してくれた曲です。今現在も色々なアーティストがカバーするほど世界的に有名な曲ですが、アルファベット学習から入った当時の僕はそのときに初めてこの曲を聴き、その美しく力強いメロディーと、時折、低音の女性ボーカルのように聞こえる Billy Joel の伸びのある声に鳥肌がたつ気分がしたのを今でも覚えています。その後、英語学習を通して、また、The Beatles & Queen などの洋楽を聴いて、徐々に英語を理解していったように思いますが、今となつては英語にはまったく何かしらのきっかけを与えてくれたのだと感じます。本『Advanced Language Practice with Key』 Michael Vince ▼スコットランドのエディンバラ大学の語学教育機関で IELTS の準備をしているときに自身が使用していた英文法・語法問題集です。全ページ一切カラー印刷なしの、一見、ぶつきらぼうなテキストなのですが、完成させていくと、不思議と微妙な英語のニュアンスの違いが理解できたり、英語表現のバリエーションが身につけていきます。レベルも『Elementary』から『Advanced』まで4段階に分かれています。ぶつきらぼうなテキストとはいえず、ちょこちょこシュールなイラストも出てきたりして、結構、楽しめます。少し気分を変えて机上の英語学習をしてみたい人にお薦めしたい書物です。

絵本 Where the Wild Things Are Maurice Sendak 僕が幼稚園児の時に実家で初めて手にした洋書です。当時は、幼すぎて英語は一切理解しませんでした。一度見たら忘れられない程、独特なタッチで描かれる怪物たちや着ぐるみを着たマックス少年など、幼い心の中に強烈に飛び込んできたのを覚えています。大人になつてからも購入して時々味わう絵本です。

▼K先生 今からウン十年前、私が中2だったある日のこと。その日はビートルズが初来日して武道館で講演をする日でした。学校のクラスではその日の夜のテレビ中継の話で持ちきりでした。私は帰宅するとすぐに「今日はビートルズを見てね。絶対見たいんだから」と家族に宣言しました。その当時はもうテレビが日本中に普及していましたが、一家に2台以上テレビのある家庭はほとんどなく、録画装置もなかった。でどおりあえず家族の中でチャンネルの主導権を握らないといけなかつたので、見たい番組の時間が重なるのとどれを見るかで兄弟や親子で争いが起きることもよくありました。そのかわり家族みんなで同じ番組を見るのでお互いに話を通じて良かった面もありました。▼ところが何とその日に我が家のテレビが故障して映らなくなつてしまつたのです。ショックが大きすぎてどうしていいかわからなくなつた私ですが、お向かいのお宅のおばちゃんに「今晚テレビでビートルズを見せて下さい」と頼むことにしました。そんなに見たかつたんですね。ビートルズ。自分たちの作つた音楽を自分たちで歌つて、独特の髪型やファッションもとてもかっこよかつたです。何とかしてその歌を理解したい、自分でも英語で歌つ

てみたい、というわけで一生懸命歌詞カードにとらめっこしました。▼ビートルズはイギリス出身でしたが、当時アメリカではフォークソングというものが生まれていました。フォークソングはもとも民謡という意味ですが、そのころ若者たちが自分の気持ちや主張を歌にして親しみやすいメロディーで歌っていたのです。それらの歌は歌手の美しい声を聞いて味わうためのものではなく、みんなで歌つて共感するためのものでした。ジョーン・バエズやボブ・ディランやPPMといった人たちのレコード(CDではありません)を聞いてギターを弾く友達といっしょに歌いました。こういう歌から覚えた英語はすつと頭に入つて忘れにくいものです。▼最近ではデイズニーのアニメ映画の「ありのままで」という歌が大流行しました。が、ぜい『Let it go』(Let it go)と英語で歌いたいものです。すてきな歌やミュージカルや映画やドラマが英語にはいっぱいあります。そのほんの一部でも英語で味わえるというのは本当に楽しくて英語を勉強して思えますよ。

▼M先生 僕は松蔭と同じ六年一貫の学校で中学高校時代を過ごした。クラブ活動は、「少しでも英語が上手になりたい。少しでも英語に触れられるように。」という、単純な、しかし良く言えば子どもらしい理由でE.S.S.S.部に入部した。だが私は入部後すぐに後悔することになる。なぜなら私の母校のE.S.S.S.部は、いわば「英語版演劇部」といった感じで、文化祭で長編の英語劇を上演するというのが最大のイベントで、一年のほとんどの活動がその英語劇のためにあると言つても過言ではないクラブだったのだ。しかし、「別に舞台に立ちたいわけじゃないなあ」と思いながらも、自分で入部を決めたクラブを途中でやめるのもなんだかつこ悪い気がして、結局六年間続けられたことになるのだ。▼確かに私がまだ中学生で文化祭が終わつた直後の時期だったと思う。翌年の英語劇の準備に取り掛かるにはまだ少々早かつたのだらう、そのクラブ活動の中で、ある映画のビデオを見ることになった。当時の私は知らなかつたが、その映画はとても有名な人気作らしく、部長が「今日は〇〇のビデオを見ます。」と言つた時に「やつたー！」と喜んでいて、高校生の先輩がいた。私は部長が言つたタイトルさえも正確には聞き取れず、しかもその映画は日本語はもちろん英語でさえも字幕が付いておらず、私の頭の中は「？」だらけだった。それなのに、先ほどタイトルを聞いただけで喜んでいて笑つていたので、何を聞いて笑つていたので、単純に「すごい！」と思つた。その先輩は「英語で九〇点以下は取つたことがない。」と公言している人で、私は「英語をがんばれば、私も何年後にはこの先輩のようにになれるのかな。」と思つた。▼正直なところ、今の私にとつても、「映画を字幕なしで見ても、その内容が完璧に理解できるか」と言われると、なかなか厳しいものがある。ちなみに私がクラブ活動で初めて見た、内容はおろかタイトルさえもよく分からなかつたその映画は、『バック・トゥ・ザ・フューチャー』という、超メジャー中のメジャーなのだが、その後私は、テレビで放映されたものだったかレンタルしたものであったかを見て、そのおもしろさに引きこまれた。先輩が笑いながら見るのも当然だと思つた。ストーリーもさることながら、爽やかかつこよくて、でもキュートさも持ち合わせた、マイケル・J・フォックスに私は大いに魅了された。『バック・トゥ・ザ・フューチャー』は続編が二作公開され、二作とももちろん見た。昨年は、映画の中で「三十年後の未来」として描かれていたのと同じ二〇一五年だったのが、きつと今見てもこの映画は非常に良くできたエンターテインメント作品だと思つた。▼私の心のどこかには、ずっと、高校生ながら『バック・トゥ・ザ・フューチャー』の字幕なしで見て笑つていた先輩がいたように思う。「英語で九〇点以下は取つたことがない。」は私にはどうも達成できなかったけれど、いつかあの先輩のようになりたいと、今思えば密かに憧れて目標にしていたような気がする。

M R先生のおすすめの本2冊

1. The Old Man and the Sea - Earnest Hemingway
Earnest Hemingway has a simple writing style and uses shorter sentences so it is easier to understand. Many people in America read this book in school.



2. Animal Farm - George Orwell
George Orwell uses simple English to reach a wide audience. The animals in the story also use short and simple sentences so it is great for English learners.

Y H先生 ▼英語の本の思い出 ▼はじめて読んだのは『椿姫』の仏語からの英訳で、高校の先生が「翻訳の英語はわかりやすい」と言つて貸して

R B先生 ▼歌 The old man was dreaming about the lions. (老人はライオンの夢を見ていた。)

